



2022年12月8日

日本鉄道労働組合連合会

## J R 九州連合 第 3 2 回定期大会

# 将来に希望が持てる J R 九州グループの創造をめざして



J R 九州グループ労働組合連合会（J R 九州連合）は、11 月 25 日、福岡市内で第 32 回定期大会を開催し、「J R 連合結成 30 年を次代への起点に据え、将来に希望が持てる J R 九州グループを創造しよう!」をスローガンに、向こう一年間の活動方針を満場一致で確認した。

冒頭、挨拶に立った芦原秀己会長（J R 連合副会長・J R 九州労組中央執行委員長）は、①安全確立、②組織強化・拡大、③諸労働条件の回復・政策課題実現について所信を述べた。そして、「コロナ禍により加盟単組の置かれた状況はそれぞれ異なるが、一刻も早くこの苦境を克服して攻勢に転じるべく、将来を見据えた議論を深め、組合員の不安を解消できるよう、加盟単組が連携して取り組みを展開していこう」と強く訴えた。



代表挨拶を行う J R 九州連合 芦原会長（左）、  
来賓挨拶を行う J R 連合 荻山会長（右）

また、J R 連合からは荻山市朗会長と鎗光俊勝労働政策局長が出席し、代表して挨拶に立った荻山会長は、「①ポストコロナにおける政策課題」、「②2023 春季生活闘争」について所信を述べたうえで、「J R 連合結成 30 年の本年を大転換期と捉え、今後 J R 産業で求められる経営の変革や仕事のしくみ、働き方の変革を実現するために、私たち労働組合も主体的な参画により、変革を支える基盤としての役割を果たしていこう」と呼びかけた。

議事では、幹事会から提起された議案に対して代議員から、2023 春季生活闘争における J R 九州連合一体となった取り組みや全国旅行支援制度の課題と期限延長についての発言があった。その後、吉田春菜事務局長（J R 九州労組中央執行委員）の総括答弁を経て、全議案が満場一致で採択された。その後、新役員や大会宣言が採択され、芦原会長の「団結がんばろう」で閉会した。



総括答弁を行う吉田事務局長

## 「30 周年提言」「2023 春季生活闘争」について勉強会を開催!



J R 連合による学習会の開催

大会の前段では、学習会を開催し、J R 連合の鎗光労働政策局長が「次なる 30 年の強くしなやかな J R 産業を創る 5 提言」と「2023 春季生活闘争にむけた考え方」について講演。J R 産業の持続的な発展に向けて必要な政策を共有するとともに、すべての仲間が将来に亘り安心して働き続けることができる就労環境の構築をめざし、加盟組合一丸となって取り組むことを確認した。